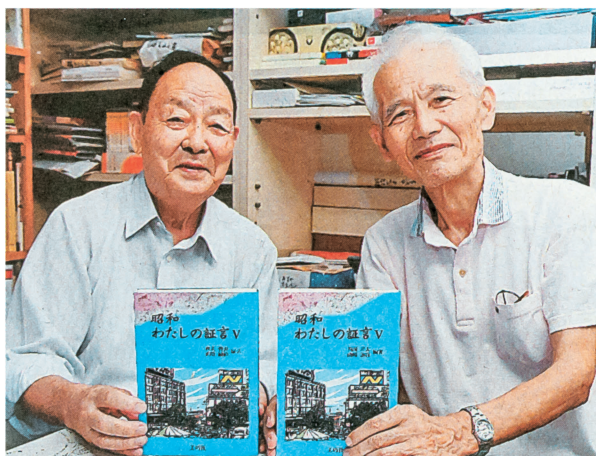


子や孫へ昭和の証言



編集者の西岡幹夫さん（左）と山崎敏範さん（右）三木町池戸

戦争や学生運動、東京五輪など、昭和の出来事を背景にした自分史を集めた「昭和わたしの証言」を県内の有志らが刊行した。

執筆者は県内外の50代～90代の26人。大学教授、教員、船長、ジャーナリストなど様々な経歴を持つ。戦中戦後の苦しい生活や物がない時代の暮らした工夫、勉学や仕事に打ち込んだ青春の日々などをつづった。

2009年以来、5巻目の発刊。編集を担っていた津森明・高松短期大教授が亡くなり、出版は一時中断したが、有志たちによって8年ぶりに刊行した。

県内外の50～90代 自分史集

執筆者の一人、小笠原ユキ子さん（77）＝高松市＝は、戦後まもなく母親を亡くした経験や胎内被爆者との交流について記した。孫たちが成長したら、読んでもらいたいという。「子どもたちには戦場に行ってほしい。自分の体験を書き、平和への思いを知ってほしい」

編集は、香川医科大（現・香川大医学部）名誉教授の西岡幹夫さん（85）＝高松市＝と香川大名誉教授の山崎敏範さん（77）＝三木町＝が担当した。西岡さんは「昭和を生き抜いた私たちの記録が、次世代の人たちの参考になればうれしい」と話す。

税込み1650円。問い合わせは美巧社（087・833・5811）へ。